

成人看護学実習の実習指導に対する学生の授業評価

— 授業評価スケール活用の予備的調査 —

柘野 浩子*・塩見 和子・小野 晴子

看護学科

(2011年11月22日受理)

本研究は、成人看護学実習における学生の授業評価をとおして、今後の実習指導への示唆を得ることを目的として調査を行ったものである。その結果、学生は、オリエンテーション、学習内容や方法、学習への期待度、学習目標の設定などの実習の教育システムに関して適切であると高く評価していた。また、患者との関係構築において教員の指導や配慮を高く評価しており、教員や指導者の指導を受け、学習内容や方法において適切に実習できていると評価していた。一方、教員・指導者の学生への対応に対して適切でないとも感じており、学生を個性をもった学習者としてその存在を認めること、そしてその関わりに公平性を求めていることが分かった。学生の実習評価の結果から、教員・看護師とともに、学生に対し無意図的に否定的な態度をとっている可能性があり、そのことを意識し、自分自身が看護専門職のロールモデルになれるよう、資質向上に努めることの必要性が示唆された。

(キーワード) 成人看護学実習, 授業評価, 授業過程評価スケール

はじめに

看護学実習とは、学生が既習の知識・技術を基に、クライアントと相互行為を展開し、看護目標に向かいつつ、そこに生じた看護現象を教材として、看護実践に必要な基礎的能力を修得するという学習目標達成を旨とする授業である¹⁾。舟島は「教員は、教員自身が展開する教授活動により実習目標達成を旨とする学生の学習活動を支援する」²⁾と述べている。このことは、看護学実習における教授活動の質の向上が必要であることを示している。

成人看護学実習は、成人期にある対象を理解し、対象に応じた看護が実践できる能力を養うことを目的とするが、筆者らが担当する成人看護学実習において、学生の実習目標到達に向け教授活動に対して学生がどのように評価しているのかを知る必要がある。そこで、舟島ら³⁾の「授業過程評価スケール」を用い、予備的調査として成人看護学実習の授業過程を学生がどのように評価しているかを解釈し、今後の実習指導への改善の示唆を得たので報告する。

I. 研究目的

成人看護学実習に関する学生の授業評価を行い、実習指導における改善点を明らかにし、今後の教授活動への示唆を得る。

II. 用語の定義

「授業過程評価スケール — 看護学実習用 —」とは、舟島らが開発した教育活動の質を測定する尺度である。特徴は、「看護基礎教育課程に在籍する学生の実習過程に対する評価基準を網羅し、学生の視点を反映している」という点にある⁴⁾。

III. 研究方法

1. 調査対象

成人看護学実習を終了したA短期大学看護学科3年生のうち、調査協力に同意した学生16名。

2. 調査期間

平成23年3月3日～3月17日

3. 調査方法

構成的質問紙によるアンケート調査。調査用紙を配布後、留置きし回収箱にて回収した。

4. 調査内容

「授業過程評価スケール — 看護学実習用 —」(以下評価スケールと略す) 42項目は、10下位尺度42項目から構成されている。それに筆者らは実習目標の到達度に関する項目を5項目追加し、感想等の自由記載を含めて計48項目の質問内容とした。

*連絡先：柘野浩子 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

資料 成人看護学実習の概要

1. 単位構成と実習目的・目標, 実習時間 (平成 22 年度)

<単位構成>

成人看護学習は、A・B 各 4 単位 (180 時間) の計 8 単位 (360 時間) で構成されている。学生にとって 1 回目の実習を A, 2 回目を B とし、それぞれ異なった施設で実習する。

<実習目的>

臨床の場において、成人及び老年期の健康上の諸問題をもつ対象の看護実践を通して、看護過程展開の能力と態度を養う。また、保健医療チームにおける看護の役割を学ぶとともに、自己の看護観を発展させる。

<実習目標>

- 1) 成人各期の対象をとりまく人々との援助的人間関係を成立・発展させる能力と態度を養う。
- 2) 成人期の対象の看護の必要性を認識し、看護過程を展開する。
- 3) 看護チームの機能及び保健医療組織との関連を理解し、看護の役割と責任を認識する。
- 4) 自己の看護能力を評価し、今後の学習の方向性を得る。
- 5) 学習の体験を洞察し、看護者として自己の価値観、死生観、看護観を発展させる。

2. 実習オリエンテーション

- ・4 月の実習ガイダンスの他、成人看護学実習 A・B (以下成人 A, 成人 B と略す) 各々 2 回実施。
- ・1 回目 (実習開始約 3 週間前)、実習施設・病棟に関連した事前学習 (必要な技術演習も含む) の提示と確認。
- ・2 回目 (実習開始前週の金曜日)、各実習施設・病棟の特殊性、実習展開、受け持ち患者の提示および看護技術の確認。
- ・成人 B は 2 回目の実習のため、成人 A での学びを生かし、さらに発展できるように導入。

3. 実習内容

- 1) 同意が得られた 1 名の患者を受け持ち、看護過程を用いて看護展開する。
- 2) 受け持ち患者のその日の病状や予定を確認した後、臨地実習指導者 (以下 指導者とする) にその日の実習目標及び実習計画について報告し、確認と助言を得て看護援助を実施する。
- 3) 援助の実施は、指導者及びスタッフか教員が一緒に行う。実習終了前、その日の実習目標到達度、体験したことや疑問等を報告し、問題解決への糸口や翌日の看護の方向性をつかむ。
- 4) 実習終了時、テーマを決めグループ全員で毎日ショートカンファレンスを行い、学びを共有。

4. 実習の進め方

- 1) 月曜日～木曜日は臨地実習、金曜日は学内実習。実習 2 週目の金曜日は合同カンファレンスとして、学内にて成人看護学実習中の学生全員で学習状況を報告確認し、学びを共有する。
- 2) 看護過程の展開: 1 週目までに関連図作成。2 週目初めの計画立案と 4 週目の評価修正のケースカンファレンスを指導者が参加し行う。日々実施と振り返りをしながら看護展開する。
- 3) 実習最終日にまとめのカンファレンス (指導者参加) を行う。

5. 指導体制の実際

実習期間中は教員 1 名が各グループ 4 名～5 名の学生を担当し、原則的に臨床に常時駐在して指導に当たる。臨床には部署ごとに指導者が 1～2 名おり、交代で指導にあたる。教員は、指導者や病棟管理者と連携をとりながら指導し、実習評価は教員が行う。

5. 分析方法

尺度の信頼性と妥当性は、舟島らにより確認されている。問1～42について5段階リカー尺度を用い、「非常に当てはまる」5点、「かなり当てはまる」4点、「大体当てはまる」3点、「あまり当てはまらない」2点、「全く当てはまらない」1点として得点化し、各下位尺度の平均点をみた。追加した質問項目43～48については平均点と内容から解釈した。

6. 倫理的配慮

A短期大学看護学科成人看護学実習を行った3年生に、本調査の趣旨を説明し、研究目的以外には使用しないこと、匿名性の保持、自由意思による参加であること、公表の旨を口頭および文書で説明し、回答をもって同意を得たと考えた。

また、尺度の使用については、千葉大学大学院看護学研究科看護教育学教育研究分野、舟島なをみ氏から使用許諾を得た。

IV. 結果

1. 授業評価スケールの結果 (表1)

表1に示す通り、評価スケール42項目の質問に対する総得点は161.9点であった。10の下位尺度の平均得点は39.0点で、【I オリエンテーション】3.9点、【II 学習内容・方法】4点、【III 学生一患者関係】4.2点、【IV 教員、看護師一学生相互行為】3.7点、【V 学生への期待・要求】3.8点、【VI 教員、看護師間の指導調整】3.5点、【VII 目標・課題の設定】3.8点、【VIII 実習記録の活用】4点、【IX カンファレンスと時間調整】4.1点、【X 学生一人的環境関係】4点であった。以下、下位尺度I～Xは【 】で、質問項目は【 】で示し、下位尺度ごとの結果の中で、平均得点の高い質問項目、低い質問項目について述べる。

【I オリエンテーション】

2つの質問項目で構成され、平均得点は3.9点であった。質問項目では、[1]の必要に応じたオリエンテーションの機会の用意は3.7点、[2]のオリエンテーションの内容の役立ちは4.1点であった。

【II 学習内容・方法】

6つの質問項目で構成され、平均得点は4点であった。質問項目で4点台は、受け持ち患者中心の実習の[3]が4.2点、患者の個性を考慮し、日々の振り返りを生かした実習の[7][8]の4点であった。今までの学習内容を活用した実習展開の[6]は3.9点、学習目標である援助の実施の[4]、計画・実施・評価の流れに沿った実習展開の[5]は3.8点であった。

【III 学生一患者関係】

2つの質問項目で構成され、平均得点は4.2点であった。これはI～Xの全下位尺度の中で平均得点が一番高かった。質問項目でみると、コミュニケーションの深まりの[9]、関係構築の[10]の2項目とも4.2点であった。

【IV 教員、看護師一学生相互行為】

14の質問項目で構成され、平均得点は3.7点であった。質問項目で4点台は、[24. 教員や看護師は、実習カンファレンスに参加していた]の4点のみであった。学生の必要性に応じた助言を得る、質問ができるなどの[11]、[20]は3.9点、学生への主体性や個性の尊重、先入観無く真剣に学生に対応するなどの[12][15][18][19]は3.8点であった。具体的な指導の[13]が3.7点、学生が困難な状況での支援や人間としての尊重、丁寧対応の[14][16][21]が3.6点であった。やや低い平均得点であったのは、学生への公平性、学生の意志の尊重の[17][22]が3.5点であり、[23. 看護師の患者に対する態度から学ぶ機会の多い実習であった]の看護師のロールモデルに触れる機会に関する質問が3.3点で、全質問項目中もっとも低かった。

【V 学生への期待・要求】

2つの質問項目で構成され、平均得点は3.8点であった。質問項目では、適切な質問の量の[25]は3.9点、期待される行動の難易度の[26]は3.7点であった。

【VI 教員、看護師間の指導調整】

2つの質問項目で構成され、平均得点は3.5点であった。質問項目では、連携がとれた指導の[27]は3.5点、一貫性がある指導の[28]が3.4点と、2項目とも平均得点がやや低く、下位尺度の中ではもっとも低い平均得点であった。

【VII 目標・課題の設定】

3つの質問項目で構成され、平均得点は3.8点であった。質問項目では、目的・目標が明確の[29]は3.9点、学習課題が理解しやすいの[30]は3.8点、適切な記録物・提出物の量の[31]が3.7点であった。

【VIII 実習記録の活用】

2つの質問項目で構成され、平均得点は4点であった。質問項目では、記録物への指導・助言の[33]は4.1点、記録物を用いた指導・説明の[32]は3.8点であった。

【IX カンファレンスと時間調整】

4つの質問項目で構成され、平均得点は4.1点であった。質問項目では、授業時間を守る[34]は4.3点と全質問項目のうちでもっとも高かった。次いで、カンファレンスでの意味づけの[37]が4.1点、休憩時間がとれた、カンファレンスの時間が適切な[35][36]は4点であった。

【X 学生一人的環境関係】

5つの質問項目で構成され、平均得点は4点であった。質問項目では、学生同士協力できたの[38]は4.3点で、全質問項目中もっとも高い得点の一つであった。次いで教員の学生一患者関係への配慮の[41]は4.2点、教員と学生間のコミュニケーションの[39]は4.1点、教員の学生とスタッフ間への配慮の[42]が3.8点であった。やや低い平均得点であったのは、他の医療従事者との連携の[40]が3.6点であった。

2. 実習評価スケールの下位尺度分布

評価スケールの解釈において、181点以上が高得点領域、139点以上180点以下が中得点領域、138点以下が低得点領域

表1 授業評価スケール — 看護学実習用 —

下位尺度	質問項目	下位項目 平均点 (点)	下位尺度 項目平均 点(点)	* 基準平均 点(点)
I【オリエンテーション】	1 必要に応じてオリエンテーションを受ける機会があった	3.7	3.9	3.5
	2 オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った	4.1		
II【学習内容・方法】	3 受け持った患者の看護を中心に実習を展開できた	4.2	4	3.7
	4 学習目標としていた援助を受け持ち患者に行うことができた	3.8		
	5 受け持ち患者に対し、計画・実施・評価の一連の流れに沿って実習を行うことができた	3.8		
	6 今までの学習内容を活用しながら実習を展開していた	3.9		
	7 患者への理解を深め、個性を考へながら実習を展開していた	4		
	8 日々の学習を振り返りながら、それを生かして実習を展開できた	4		
	9 患者とのコミュニケーションを深めながら実習を展開していた	4.2		
III【学生—患者関係】	10 患者との関係を築きながら実習を展開していた	4.2	4.2	4
	11 教員や看護師は、学生の必要に応じてアドバイス・指導・説明などを行っていた	3.9		
IV【教員、看護師—学生相互行為】	12 教員や看護師は、学生の意見を認めた上で、アドバイスや指導を行っていた	3.8	3.7	4
	13 教員や看護師の説明は、具体的でわかりやすかった	3.7		
	14 教員や看護師は、学生が困っている時に助けてくれた	3.6		
	15 教員や看護師は、学生の個性に合わせて指導していた	3.8		
	16 教員や看護師は、学生を1人の人間として尊重していた	3.6		
	17 教員や看護師は、どの学生にも平等に接していた	3.5		
	18 教員や看護師は、学生に真剣に関わっていた	3.8		
	19 教員や看護師は、先入観をもたずに学生に接していた	3.8		
	20 必要に応じて、教員や看護師に質問することができた	3.9		
	21 教員や看護師は、学生の質問にわかりやすく答えていた	3.6		
	22 教員や看護師は、学生が自分の考えに基づいて行動することを尊重していた	3.5		
	23 看護師の患者に対する態度から学ぶ機会が多い実習であった	3.3		
	24 教員や看護師は、実習カンファレンスに参加していた	4		
	V【学生への期待・要求】	25 教員や看護師の学生に対する質問の量は、多すぎることも少なすぎることもなかった		
26 教員や看護師が学生に期待する行動は、難しすぎることもやさしすぎることもなかった		3.7		
VI【教員、看護師間の指導調整】	27 教員と看護師の連携がよくとれていた	3.5	3.5	3.4
	28 教員と看護師の指導の間に一貫性があった	3.4		
VII【目標・課題の設定】	29 目的目標が明確に伝わる展開の実習であった	3.9	3.8	3.4
	30 学習課題とその必要性が理解しやすい実習であった	3.8		
	31 実習中の記録物・提出物などの量は適切であった	3.7		
VIII【実習記録の活用】	32 教員や看護師は、提出した記録物を用いて指導・説明していた	3.8	4	3.9
	33 記録物や提出物に対して、指導・助言があった	4.1		
IX【カンファレンスと時間調整】	34 教員が授業時間をむやみに早めることや、終了時間を延長・短縮することはなかった	4.3	4.1	3.9
	35 状況に合わせて休憩時間をとれた	4		
	36 カンファレンスの時間は、長すぎることも短すぎることもなかった	4		
	37 カンファレンスにより、実践した内容を意味づけることができた	4.1		
X【学生—人的環境関係】	38 学生同士が協力し合うことができた	4.3	4	3.9
	39 教員と学生間のコミュニケーションはよかった	4.1		
	40 実習では、他の医療従事者の協力を得られた	3.6		
	41 教員は、学生が患者とうまく関わられるように配慮していた	4.2		
	42 教員は、学生がスタッフとうまく関わられるように配慮していた	3.8		
計		161.9	39.0	37.2

*は舟島らの調査から抽出された各下位尺度の項目平均点

と説明されている⁵⁾。質問項目の総得点は161.9点であり、中得点領域に位置していた。

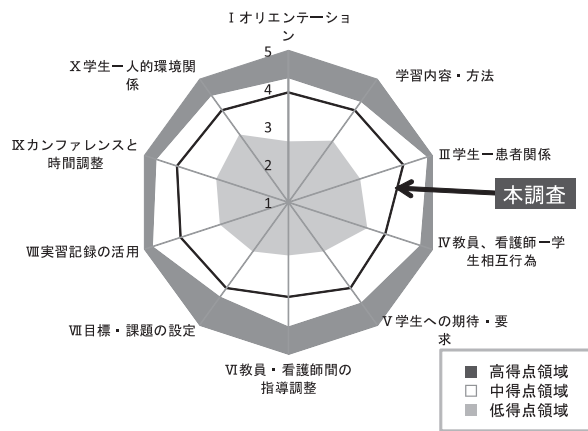


図1 下位尺度分布での本調査の結果

各下位領域尺度の領域分布を図1に示した。濃いグレーの領域が高得点領域、白が中得点領域、薄いグレーが低得点領域である。本調査結果はどの下位尺度においても中得点領域に位置していた。

尺度開発を行った舟島らの結果⁶⁾において示されている平均得点を基準平均得点として、本調査との比較を図2に示した。比較的高い評価を得たのが、【I】【II】【V】【VII】で、オリエンテーション、学習内容や方法、学習への期待

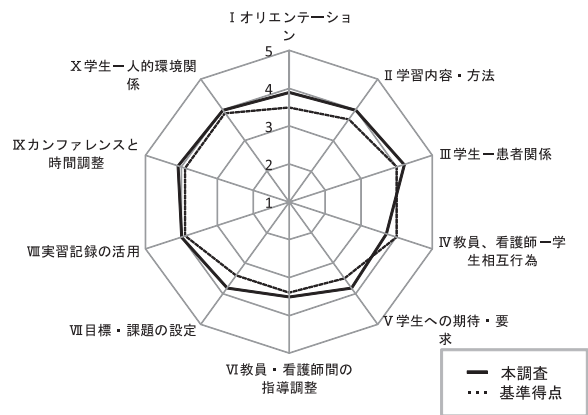


図2 本調査と基準得点の比較

度、学習目標の設定など実習の教育システムに関する評価であった。一方、基準平均得点を下回ったのは【IV】の教員・看護師-学生相互行為であった。

3. 追加質問項目【実習目標到達関連】

5つの項目で構成し、平均得点は3.8点であった。質問項目では、自己の価値観、死生観、看護観の発展の[43]と、事前学習の[46]は3.9点、自己の実習目標到達の[44]、事前学習の活用の[47]が3.8点、講義資料の活用の[45]が3.7点であった。(表2)

実習に関する自由記載では、教員、指導者、実習全体に対しての意見や感想があった。教員に対しては、「細かいところまで指導してくれた」「指導は学生個々に対して平等で細やかだった」「記録への助言や指摘が次の実習で生かされた」という肯定的な意見・感想であった。指導者に対しては、「思っていることを学生に言うてくれず、やりづかった」「スタッフは学生に対して差別的に感じた」「看護師のことばがきつかった」など、やや否定的な意見・感想であった。実習については、「実習では多くの学びがあり生かすことができた」「緊張感をもって実習できた」「急性期実習はスタッフや展開の早さに苦しんだが、一番役に立っている」「実習終了後に気づくことが多いが、とてもよかった」という達成感を得た意見・感想であった。

V. 考察

10下位尺度の総得点は161.9点、各下位尺度の項目平均点は3.9点であった。この評価は「中得点領域」に位置していることから、学生は実習全体の質を平均的であると評価しているものと考えられる。また、舟島ら⁷⁾の結果において示されている基準平均得点は3.7点であり、本調査が0.2点高かった。これらのことから、実習内容・対象学生などの条件が違おうとしても、本授業の評価はほぼ平均的な評価であったといえる。

1. 比較的评价が高かった下位尺度項目について

比較的评价が高かった【I】【II】【V】【VII】は、オリエンテーション、学習内容や方法、学習への期待度、学習目標の設定など実習の教育システムに関する評価であり、これらは互いに関連があると考えられる。

1) 段階的なオリエンテーションの効果

表2 追加質問項目

	質問内容	下位項目平均点(点)	下位尺度項目平均得点(点)
【実習目標到達関連】	43 学習の体験を洞察し、看護者としての自己の価値観、死生観、看護観を発展させることができた	3.9	3.8
	44 自己の実習目標を到達することができた	3.8	
	45 講義で使った教科書やノート・プリントを実際の看護に活かした	3.7	
	46 事前学習は十分した	3.9	
	47 事前学習を実習に活用することができた	3.8	

特に、オリエンテーションの効果が考えられる。成人看護学実習（文末の資料参照）では、オリエンテーションを4月の実習ガイダンス時、成人看護学実習開始3週間前、実習直前と計3回、それぞれの段階を経ながら徐々に具体的に実施しており、オリエンテーションが進むにつれて実習のイメージと学ぶ目標が明確になり、実習が円滑に行われたものとする。そして技術演習は、患者の安全安楽を確保するためにその反復練習が必要である。学生が技術の練習をした後、実習直前にその技術習得状況の確認を教員が行い、技術の保証やアドバイスをしていたため、学生は患者への技術提供にあたっては自信をもって実習に臨めたものと考えられる。オリエンテーションは、実習に対するモチベーションにつながる大切な導入である。このオリエンテーションは、今回調査項目に追加した実習目標到達関係の質問項目で比較的高い評価を得た「自己の実習目標を達成することができた」[事前学習は十分した]にもつながっていたと考えられる。現在のオリエンテーション方法、内容が効果的であることを示していた。

2) 実習現場での教員の関わり

教員は実習日には学生と一緒に臨床に立ち、学生の実習目標達成を日ごとに指導をしている。学生の受け持ち患者について、直接もしくは間接的な方法により情報を収集し、問題を発見し、その問題の解決を目指している。そして、学生の患者理解が深まるように、既習の知識の活用や統合ができるよう指導をし、また必要時は学生と一緒にケアに当たるなど、学生が看護展開できるよう支援している。これらのことから、現在の実習指導方法や内容が高く評価されたものとする。また、看護学実習は教員の臨床能力に影響を受ける授業であるため、教員は看護実践者としての資質を向上していくよう今後もさらに努力をする必要性があることが示唆された。

2. 基準平均点を下回った下位尺度項目について

この項目は、実習における教員、看護師の学生に対する対応の適切性、看護師の患者に対する態度から学ぶ機会の量、教員や看護師のカンファレンスへの参加度を測定している。

1) 学生を尊重した関わり的重要性

基準平均値と比較して特に低かったのは、学生への平等な関わり、主体的な学生の行動支援に対するやや否定的な評価である。教員や看護師に対して、学生を個別性ある学習者としてその存在を認めること、そしてそのかわりには公平性を求めているものと考えられる。また、教員や看護師が無意図的に学生を好ましく思っていないと受け取れる言動をとることがあったことも推測される。田島⁸⁾は、「教育は『意図的な働きかけであること』、『人と人とのかわりであること』、『主役は学修者であること』」とし、「意図的な働きかけについては、そこには各々が個性を持つ人と人とのかわりがあり、同時に、両者は相互に学んでいる関係がある」と述べている。学生を一人の学習者として尊重したかわりが重要であり、実習現場では学生は患者

と同様に弱者であることを意識しておくことなど、教員・看護師は自分自身の態度を振り返る必要性が示唆された。

2) 看護師ロールモデルへの期待

特に、[23.看護師の患者に対する態度から学ぶ機会の多い実習であった]の項目は、全項目の中でも一番得点が低かった。学生は看護師の言動から学ぼうとしており、目標となる看護師との出会いは学習意欲を向上させ、ロールモデルとして重要な役割を果たす。杉森は「人間が何らかの社会的役割を果たすために、見習いたいと知覚する行動や態度を示す人物であり、人間は、ロールモデルが示す行動に共感し同一化を試みながら、職業活動をはじめとする社会的活動に必要な行動や態度を修得する。また、いったん修得したロールモデル行動の効果は、恒久的であり、ロールモデル行動の教育的活用は、特に専門職教育に向け、重要な役割を果たす⁹⁾」と述べている。実習で出会う先輩看護師の看護行動は、指導を受ける以上に大きな影響を学生に与えるということ認識することが必要である。

3. 追加項目について

1) 実習到達目標の達成

自己の実習目標到達については平均が3.8点であったことから、学生は実習目標を概ね到達できていると評価していた。実習目標に到達するにはオリエンテーションを含め、日々の学習の積み重ねが大切である。田島は「学修者が目標に向かって進む際に教育者はそれを支援する立場にある。そのために教育者は学修者の学修環境を整え、学修者自らの変化に向かう過程において望ましいガイド役を務めることが必要である。」¹⁰⁾と述べている。学生にとってより良い学習環境となり、実習目標への到達をスムーズにするよう整えていきたい。

2) 教員・看護師の関わりについての自由記載

自由記載については、記録の指導が高い評価を得たが、看護実践のプロセスが記録をとおして強化され、看護の喜びを実感することにつながったと考えられる。実習体験を記録することの重要性と、看護行動を意味づける記録の指導の重要性を再認識させられた。

一方で、学生の人権に配慮できなかった意見や感想については、指導者や臨床と連携し、指導体制を整えていくことの必要性が示唆された。

4. 本調査の限界と課題

本調査では、調査協力者が16名と少なく、学生60名全体の意見を代表しているものとはいえない。しかし、16名の授業評価の中から課題もいくつか明らかになり、今後の全体調査への予備データとしては意味のある結果を得られた。

一方で、成人看護学実習は異なる複数の施設・病棟で実施していること、そのため、かわる担当教員や指導者も違い、学生の授業評価に影響がないとはいえない。また、実習時期はローテーションで学生によって違うため、実習終了時の時期がまちまちであり、調査結果にバイアスが出てくる可能性がある。今回の調査結果は予備的調査と位置づけ、授業評価スケール活用の時期や実習施設等の学生の

環境的な要因を顧慮した調査方法を検討する必要がある。

謝辞

本調査にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

文献

- 1) 杉森みどり：看護教育学 第3版. 医学書院, 1999.
- 2) 舟島なをみ：看護実践・教育のための測定用具ファイ

ル 第2版. 医学書院, 2009.

- 3) 前掲2)
- 4) 前掲2)
- 5) 前掲2)
- 6) 前掲2)
- 7) 前掲2)
- 8) 田島桂子：看護実践能力育成に向けた教育の基礎 第2版, 医学書院, 2004.
- 9) 前掲1)
- 10) 前掲8)

Student course evaluation of practical training in nursing education — A preliminary study on the use of a course evaluation questionnaire —

Hiroko TSUGENO, Kazuko SHIOMI, Haruko ONO

Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585, Japan

Summary

This study explored teaching strategies using student course evaluation of practical training in nursing education. The results showed that the students highly evaluated the practical learning system, such as orientation, curriculums and learning methods, course expectations, and determining learning objectives. The students also highly evaluated the teaching ability and thorough considerations of teachers, and responded that they could successfully learn the curriculum from teachers and instructors. On the other hand, the students were not satisfied with the support from teachers and instructors, which revealed that the students place emphasis on the individuality of learners and seek fairness in teacher-student involvement. The results also indicated that teachers and nurses may unintentionally have a negative attitude toward students, suggesting the need for teachers to be aware of this and try to improve their quality as a teacher to become a good role model for nursing professionals.

Key words: Nursing practical training, course evaluation, course evaluation questionnaire